

# 軍事研究

JAPAN MILITARY REVIEW

2011 1

北朝鮮暴発! 極東アメリカ軍の実力行動はあるか

カラー図説・新連載『自衛隊有事作戦と新兵器』

『弾道ミサイルを撃墜せよ』

『こんごう型イージスBMD艦』

『コンセプト艦の最新動向』

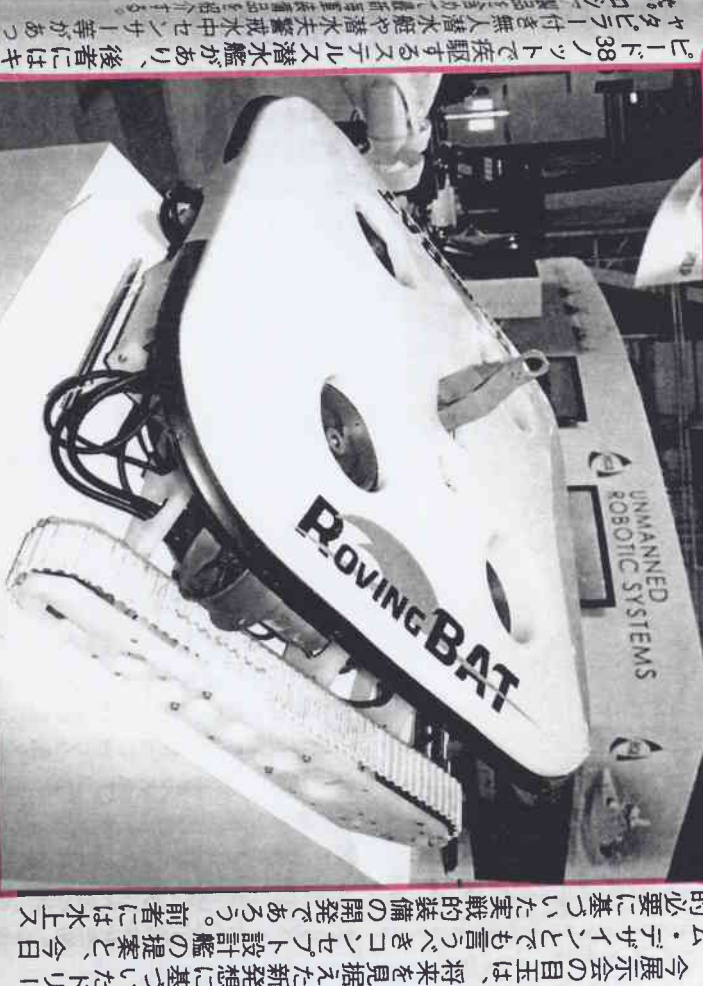
『モサドのヒスボラ殲滅戦』

A SM-3 is launched from the JS Katsuragi



『EURONAVAL 2010』

報告! 世界の海軍艦艇・装備の最先端



ピート38ノットで疾駆するスナリス潜水艦があり、後者にはキヤピラー付き無人潜水艇や潜水水雷艇水中センサ一等があつ

多田智彦 (防衛技術研究者)

TADAのル

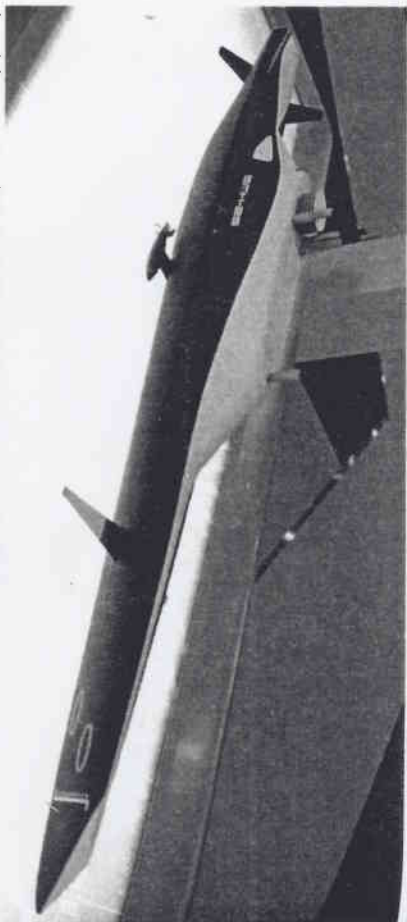
今展示会の目玉は、将来を見据えた新発想に基づいたドリーム・テザインとでも言うべきコンセプト設計艦の提案と、今日の必要に基づいた実戦的装備の開発であろう。前者には水上ス

とれている欧州海軍装備品展示会が開催された。米軍事企業からの出展が中心となるユーロネイヴァル2010 (EURONAVAL 2010) と通称される。8年に続く開催である。今回の展示会では各種艦艇や艦船装備品を展示中心にして世界の軍事情勢が反映されることが多いが、今回は遠隔操作型小口径機銃、特殊作戦部隊などが利用する硬式ゴムボート、潜水者探知ノナーなど非対称関連の展示が目立つと言つて良いだろう。またロシアが今までと異なり艦船や装備品の系統的な輸出を目指して積極的な展示をしていたのも印象的であった。以下、展示会でのトピックス事項をご紹介します。

コンセプト設計艦

海軍関連の展示会であるから各種艦船が脚光を浴びるのは当然であり、就役中の艦船または建造開始されたプロジェクトも話題になってきたが、将来を見据えたドリーム・テザインとでも言うべきコンセプト設計艦も多く

◇潜水艦 SMX-25  
フランスDCNS社は過去毎年の展示会で新しい通常動力型潜水艦のコンセプトを発表してきた。例えば八年前のユーロネイヴァル2002ではSMX-21を発表し、二年後のユーロネイヴァル2004でSMX-22、その後SMX-23、SMX-24と続いて今回はSMX-25が発表され艦体模型も展示された。SMX-25の主たる任務は母港から極めて遠く離れた海域で作戦行動を実施する必要が生じた場合に、水上高速度によって現場に急行し即刻対応して攻撃力を発揮することであるとしている。セイルのみ水上に出した半没水状態での航行では敵に見えたり攻撃を受けたりする可能性が低く、また方が一の急速潜航にも好都合である。水中での蓄響スナリス性も極めて高く、同様に敵に見えたり攻撃を受けたりする可能性が低い。



水上速度38ノットの高速で作戦海域に急行可能なスナリス潜水艦SMX-25

さて目標探知を行う。武器関連では四種類の作戦、つまり対空(対空ミサイル)、対陸上(対地攻撃ミサイル)、対水上(対艦ミサイルおよび遠隔操作型機銃)、および対水中(魚雷)のそれぞれの作戦に対応可能なように各種ミサイル合計二六発、魚雷四発、機銃一基を搭載している。このほか無人機、無人潜水艇、硬式ゴムボートRHTB (Royal High Speed Boat) を含む特殊作戦部隊搬送艇を搭載して運用することが可能だ。SMX-25の船体諸元は水上排水量二八五〇トン、全長一〇九mである。水上ではガスタク1ピン3基/ボンプジェット3基により最大速度は三八ノット、最大速度での航続距離は二〇〇海里(三七〇km)、一五ノットでの巡航距離は八〇〇海里(一万四八〇km)を予定している。また水中では電動機推進で最大速度一〇ノット、最大潜航深度は一〇〇mと発表されている。乗員は二七名を予定している。

◇水上戦闘艦「アドヴァンシー」

同じくDCNS社がフリゲートのコンセプト艦「アドヴァンシー」Adviserを発表し





射距離六三海里(一一七km)、弾着誤差はCでPで〇・二〇m(目標五m)を目標したロケット推進の長距離誘導砲弾ERGM(Extended Range Guided Munition)を使用する計画であった。

EX171という型名で開発開始されたERGMは従来砲弾(重量七ポンド二三・七五kg、最大射距離一三海里二四km)より大型(全長六・一五五m、重量一〇ポンド二五kg)であり、発射後に固体燃料によるロケット推進で射距離を延伸し、さらに弾着精度向上のためINS/GPS誘導が予定されていた。しかし二〇五年には実用化されるとしていたERGMプロジェクタは開発が難航したため、米海軍は二〇八年に開発を中止した。

ERGMの開発会社はレイセオン社であったが、ERGMとは別途にBAEシステムズ社が最大射距離五三海里(九八km)、弾着誤差CEP五mを目標とした五インチLR LAPと称する長距離陸上砲弾を開発中であり、二〇一二年頃に実用化できるとのことであった。

なお、わが国では「あた」型DDG二隻(二〇一〇および〇八年就役)からMRK45Mおよび着発信管が取り付けられている。オットー・マラ社は誘導砲弾の使用は対空ミサイルよりも(機種によって異なるが)一分の一以下の費用で対空目標などの撃墜が可能であるとしている。また今まで各地の防衛展示会では砲塔(砲盾)内の電波誘導装置の写真撮影は禁止であったが、今回は開発が終了したためか撮影はOKであった。

なお、オットー・マラ社は七六mm単装砲のほか、同社の二七mm単装砲で発射する長距離誘導砲弾「ウルカーン」(Urkahn)を開発している。同砲弾はアメリカで開発中の長距離誘導砲弾のようにロケット推進するのではなく、空気力学的な制御だけで一〇〇km以上の最大射距離を実現すると発表している。

## 水上/水中艇

コムポートや水中スクーターなどレジャー

d4砲を採用しており、去る一月三日に一番艇が進水した新型汎用護衛艦「あきづき」型Dでも同型砲を搭載して従来砲弾を使用するが、将来的には五インチLR LAPを運用することになるかもしれない。

参考までにBAEシステムズ社は三隻の建造が開始された「アウオルト」ZUMC級駆逐艦の甲板に二基搭載される先進砲システムAGS(Advanced Gun System)と称されている一五五mm単装砲を開発しており、この砲から発射されるLR LAP(最大射距離七四海里二三七km)についても開発を担当している。

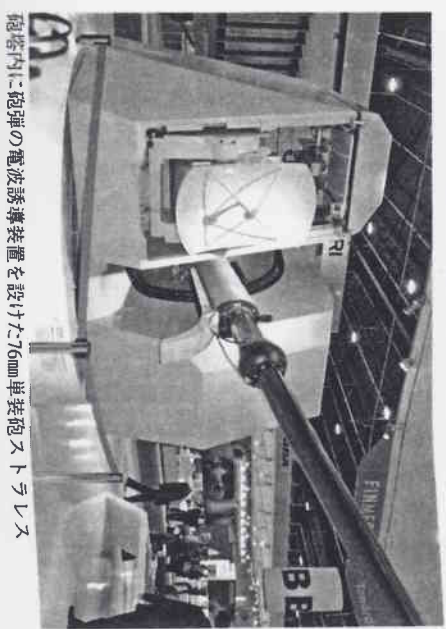
オットー・マラ(Otterstrom)社が開発した六二口径七六mm単装砲は高性能な速射砲として世界的なベストセラーであるが、この砲から発射する、開発中であった誘導砲弾が実用段階に達したとして大々的なプロモーションを実施していた。

と呼ばれるシステムを構成する六二口径七六mm単装砲、誘導砲弾「DPR」および電波誘導装置である。七六mm単装砲そのもの用品と見なされていた製品が、能力を向上させて軍用としての活用が自立つようになってきた。

一般的にリアRHIBと呼ばれる推進器付きの硬式コムポートは水上戦闘艦や揚陸艦から特殊作戦部隊員を乗せて海岸への搬送などに使用するほか、近年では海賊や武装艦に収容されるのに対して、海上航行ばかりでなく車輪を備えて陸上での走行も可能なシステムは将来的に軍用面での新しい活用方法が考えられるであろう。

これらのリアの中では全長六四程度の小型の船体に推進器と操縦装置を備えただけの最も簡単なものから、これがコムポートかと思えるような大規模船体で操縦席のほかに立派な搭乗員席を備え機銃等武器も固定装備したものもあった。

車輪を上げた(折りたたんだ)状態で通常の



砲塔内に砲弾の電波誘導装置を設けた76mm単装砲ストラリス

は発射速度二二〇発/分の速射砲として海上自衛隊を含む各国海軍で採用されているが、ストラリスでは新しく設計したストラリス砲塔内の右側に砲弾を電波誘導する装置が収容されている。誘導砲弾「DPR」を発射する場合は砲塔(砲盾)右側の扉を上方に開いて内部のアンテナ機構を含む電波誘導装置をやや前方にせり出すようになっている。

通常のリフは水上戦闘艦や揚陸艦などから発進し、運用後に母艦に帰還した場合はクビッドやウエル・ポツキなどの設備を有する母艦に収容されるのであるが、海上航行ばかりでなく車輪を備えて陸上での走行も可能なシステムは将来的に軍用面での新しい活用方法が考えられるであろう。

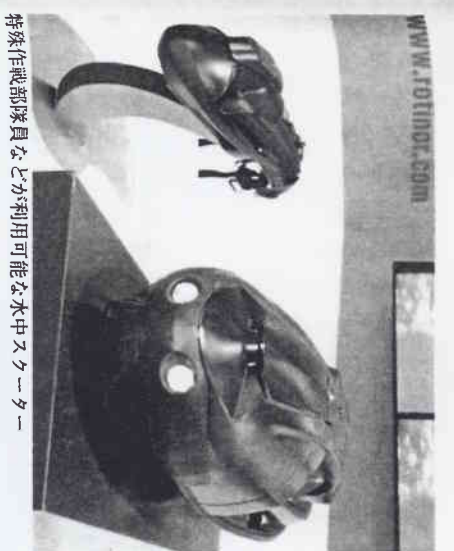


陸上走行用の折りたたみ式車輪を備えた硬式コムポート「シュニレグス」

量二〇程度であるが、特徴は水中推進用  
一m×一m×〇・五mの分厚い座布団状で重  
このUVは縦×横×厚さのそれぞれが約  
示発表していた。

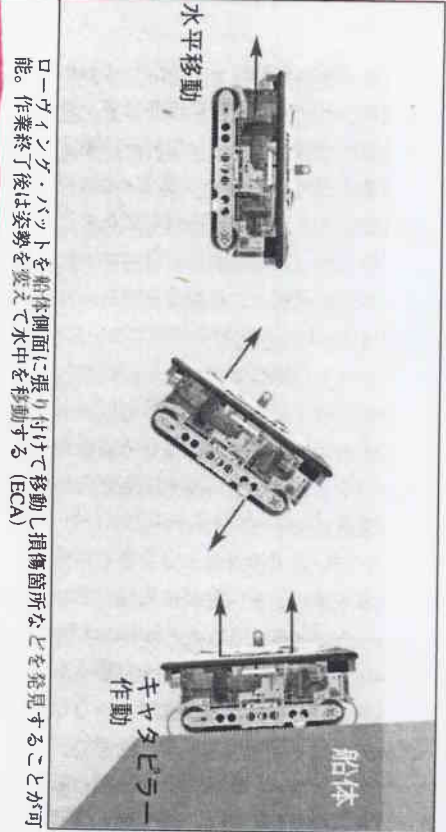
してローイング・バット (Rowing Bat) を展  
のECA社が、新しいコンセプトのUVと  
ター (Auriga) などを開発しているフランス  
機雷対処用のKスター (K-Star) やリス  
◇ローイング・バット

り警察も入っている。  
S社のはカイトリア海軍などであり、モスク  
客はフランス海軍および沿岸警備隊、DCN  
けた (EUROVAL Trophy 2010)。同社の願  
アル2010で優良成長企業として表彰を受  
テク社は急成長を遂げており、ユーロナイ  
社としてアルセーエで設立されたサフシー。  
なお、二〇〇五年に水中ロボットの専門会  
を取り付けて運用することが可能である。  
装置、海水の塩分や伝導度測定プローブなど  
さらにエニチュレター、海水や沈殿物採取  
ヨシとして、ソナー、デジタル厚さ測定器、  
このようなセンサーの基本形のほかにオプシ  
照明灯 (九〇ルメン) 二基を備えている。  
スカラー・カメラ二基 (前後) で、LED



◇水中スクーター  
潜水員を着けた特殊作戦部隊員などが水中  
移動に利用可能な水中スクーターがドイツのロ  
テニール (Teinil) 社から発表されていた。  
展示されていたのは大小の二機種で、大型  
のシーボア・アラク・シフトウ730  
(Seiboa Shark 730) は全長一七七cm、  
重量一〇kgの魚形状で潜水員一人が取り付  
き、操作して最大時速一・四kmで水中航行

特殊作戦部隊員などが利用可能な水中スクーター



のフロベラ (水平移動用) 基、垂直移動用四  
基) のほかにキヤタピラーを備えていること  
だ。通常のUVであれば水中を三次元に移  
動して搭載している光学センサーや音響セン  
が可

◇オプティグア13・1  
フランスの中小企業であるサフシー・テク  
ア13・1 (Optigui) を展示していた。  
世界主要国海軍における無人潜水艇UV  
の運用は、水中に設置された機雷を探知また  
は処分するような人間が実施するには危険を  
伴う作業の代行目的が多かったようだが、近  
年は安価な民需開発品の導入もあり活用範囲  
が拡大している。その結果、防衛関連の展示  
会で機雷対処以外を目的にしたUVの出現  
が目立ってきた。

無人潜水艇UV  
動力はリチウム・イオン電池/電動機  
で駆動されるオクスター・ジェットで、作動  
時間は平均三時間超、作動距離は平均二〇km  
で最大潜航深度は六mと発表されている。  
前方照明灯やソナー、航行支援用のコンパス  
なども備えている。  
水中速力はほぼ同一であるが作動時間や距  
離などが若干落ちるシーボア・タイグジェツ  
ト414 (Seiboa Tigra 414) は全長三〇  
cm、重量六四kgと小型である。

港灣全般、停泊中の艦船、海底油田掘削設  
備、さらには沿岸近くに設けられた原子力発  
電所や精油所、各種工業施設は海中から接近  
するテロリストなどが計画する破壊活動の危  
険にさらされている。これらの不審と思われ  
る潜水者を事前に捜索・探知する音響機器

潜水者探知ソナー

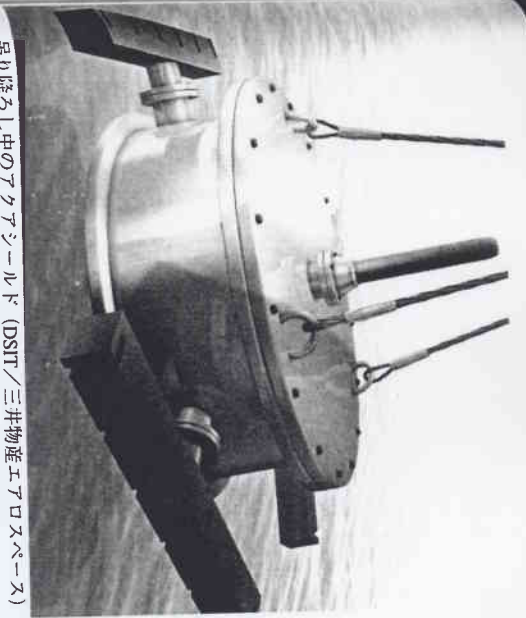
秒で移動する。作動可能最大深度は五〇m  
である。  
ソナー、キヤタピラー作動では最大〇・三m  
からケーブリングで制御され、水中では最大二  
このようなローイング・バットは管轄所  
で移動するのである。  
動させて張り付き、必要に応じてキヤタピラ  
の水面下垂直部分に垂直移動用プローブを作  
(Floating Prediction Sonar and Offboard) など  
や浮体式石油生産・貯蔵・積出設備 FPSO  
して垂直移動用は八〇kgと強力であり、船舶  
移動用プローブの推力が四八kgであるのに対  
を発見するようなことも可能だ。これは水平  
付いてキヤタピラーで移動し、船体の側など  
中移動ばかりでなく、例えば船体側面に張り  
付いてキヤタピラーで移動し、船体の側など  
を発見するようなことも可能だ。これは水平  
移動用プローブの推力が四八kgであるのに対  
して垂直移動用は八〇kgと強力であり、船舶  
や浮体式石油生産・貯蔵・積出設備 FPSO  
(Floating Prediction Sonar and Offboard) など  
の水面下垂直部分に垂直移動用プローブを作  
動させて張り付き、必要に応じてキヤタピラ  
で移動するのである。



水平用推進器二基および上下用推進器一基  
で水中を移動するオプティグア13・1は、  
長さ四九cm、幅二七cm、高さ二二cmで重量は  
僅か六・四kgである。パソコン型の制御部が  
ら最大長二〇〇mのケーブリングで制御され、  
最大速力三ノットで最大深度一五〇mまで潜  
航可能である。四時間近く使用可能な電源用  
電池を含んだ制御部もポータブル型なので、  
運用する場所の制約がないという特徴がある。  
UVに搭載されているセンサーは高解像  
度 (五三〇本) ・高感度 (〇・〇二ルック

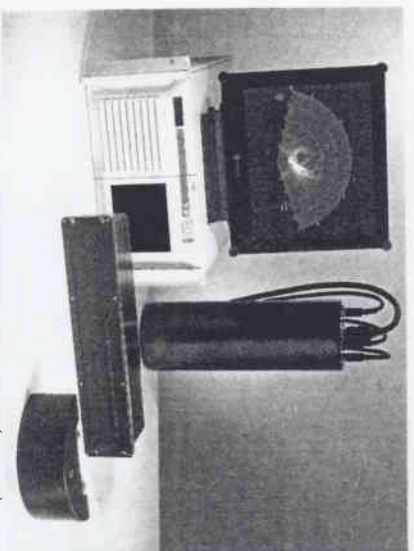
(ソナー)の開発が各国で盛んであり、今回の展示会でも実物や模型などが多く展示されていた。これらは一般的に潜水探知ソナー(DS (Diver Detection Sonar))と呼ばれているようだ。

◇アクアシールドおよびポイントシールド  
イヌエルのDSIT社がDSとしてアクアシールドおよびポイント



クアシールド (AquaShield) およびポイントシールド (DSIT) / 三井物産エアロスペース

港する艦船の海中からの状況監視、海底地形把握、無人水艇UVや無人潜水艇UVに取り付けて運用するなど広い範囲の活用が可能だ。目標探知距離は海中状況にもよるが、角度精度0.5度で高分解能画像が得られる前方監視型シールド7128では、方位2.6度、上下2.7度の範囲内、使用可能な二周波のうち四〇〇KH2では二〇〇mであるが、二〇〇KH2を選択すると五〇〇mに延



小型で高性能な前方監視型DDSSシールド7128 (RESON)

シールド (Piggyback) を開発している。アクアシールドは所定の海中に吊り降ろす船などから吊り降ろして運用するにはポイントシールドが好都合である。

ポイントシールドのシステムの構成や動作原理はアクアシールドと同一であるが、送受信アレイ (直径三.4m、高さ六.7m、重量三.5t) は方位三六〇度全面をカバーし、目標最大探知距離は五〇〇mである。潜水者の場合は使用する潜水具の種類に応じて受信アレイの基数に応じて、送受信アレイの範囲をカバーし最大三〇〇mの探知距離を有するが、目標となる潜水者が使用する潜水具の種類 (クロード型またはオープン型) に応じて七〇mまたは一〇〇mの距離で探知可能である。もし潜水者が動力付きの水中スクーターであるSDV (Submersible Diver) などを利用していると音響シグネチャが大きくなるので探知距離は一五〇〇mに延び、探知精度は距離0.5m、方位角0.2度である。同時に探知可能な目標数は一〇〇以上で、自動追尾や目標類別が可能であり、無人で運用しても自動的に警報を発するようにしている。

◇シールド7100シリーズ  
デンマークのレソ (Reson) 社は統合アルティム音響測深機 (echo sounder) の世界的な企業であるが、DS分野でも高性能な製品を開発している。シールド7100シリーズは機種に応じて音響周波数一〇〇、四〇〇KH2の範囲内を使用し、水中ユニットを海底などへ固定設置または停泊中の艦船から吊り降ろすなどして不審潜水者の探知のほか、船体にも吸着している機雷 (mine) の探知にも有効であるとしている。このほか港湾を出入

底に設置して運用するのが適当であるが、水

尾の方位角度精度は一、五度、距離精度は二、五mである。

目標の探知、類別、追尾など一連の動作が自動的に行われて音響または目視による警報を発するが、誤警報は極めて低くと発表されている。

◇アルビュP90シリーズ  
水中で高分解能画像が得られることから音響カメラ (Acoustic Camera) と称しているソナーであるアルビュ (BlueView) P90



ケルベロスMK2 (右) は原型MK1から大幅に小型化された

型で持ち運び容易である。ケルベロスMK2は音響周波数として七〇mおよび八五〇m、クロード型の場合は七〇mおよび六七五mである。目標探知追

尾距離は潜水具がオープン型の場合は九〇度全面をカバーし、探知および使用する水中ユニットを中心にして方位三六〇度、深度五.15mの範囲で使用可能である。ケルベロスMK2は音響周波数として七〇mおよび八五〇m、クロード型の場合は七〇mおよび六七五mである。目標探知追

尾距離は潜水具がオープン型の場合は九〇度全面をカバーし、探知および使用する水中ユニットを中心にして方位三六〇度、深度五.15mの範囲で使用可能である。ケルベロスMK2は音響周波数として七〇mおよび八五〇m、クロード型の場合は七〇mおよび六七五mである。目標探知追

尾距離は潜水具がオープン型の場合は九〇度全面をカバーし、探知および使用する水中ユニットを中心にして方位三六〇度、深度五.15mの範囲で使用可能である。ケルベロスMK2は音響周波数として七〇mおよび八五〇m、クロード型の場合は七〇mおよび六七五mである。目標探知追

0 シリーズをフランスのサテライト・テラ (Seispace) 社が発表・展示していた。

製品は文字通りカメラ (レンズ) そのものであり、視野角度はオプションにより四五度、九〇度および一三〇度が選択可能で、使用できる最大深度は最大六〇〇mにもなる

と発表されている。

使用している音響周波数は九〇〇kHzであり、幅一度×二〇度のビームを視野角四五度、九〇度および一三〇度の時にそれぞれ二五六本、五二本および七六八本送信している。各ビームの重なり、つまり角度分解能は〇・一八度で、距離分解能は二・五cm。画像が得られる目標距離は視野角四五度で五五m、



高分解能水中画像が得られる音響カメラ

九〇度および一三〇度で一〇〇mであると発表されている。

重量は機種により一磅弱から八磅弱と極めて軽く、無人潜水艇UVに取り付けてDDとしてのほか、機雷探知、船体や水中構造物の破損状況等の検査、防波堤や橋の検査等々幅広い応用範囲がある。

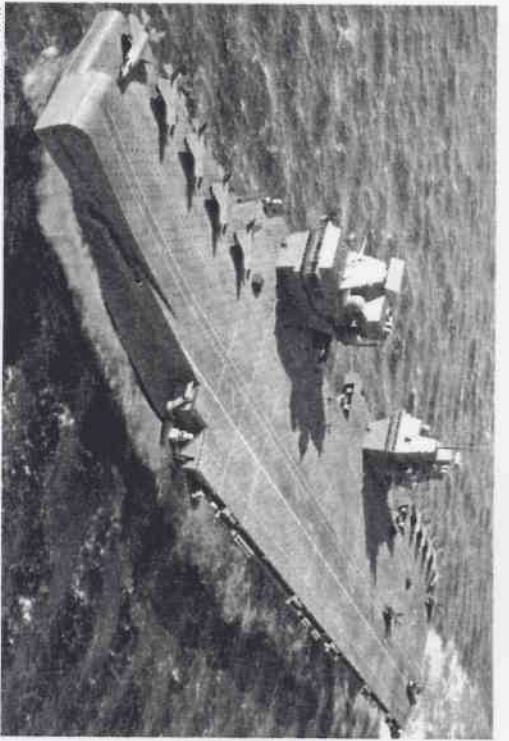
### その他の話題

エロネイナルでは遠隔操作型小口径機銃関連の展示が多く見られたが本件は今まで何度が採り上げており誌面の都合もあるので割愛し、その他の変わった話題として数件を紹介する。

### ◇電磁カタパルトEMCAT

航空機を空母から発艦させる場合に従来のような蒸気カタパルトではなく電磁力を利用する電磁カタパルトが米海軍で電磁航空機発艦装置EMALS (Electro Magnetic Aircraft Launching System) という名称で開発中であり、建造中の次期空母「ジェラルド・R・フォード」(Gerald R. Ford) に装備されることになっていく。このようなカタパルトは通常発着艦機CTOL (Conventional Take Off and Landing) したと伝えられていた。さらに英海軍は去る

〇月には当初予定していたF35Bを止めてライオン・コンストが低能力的にも優れているCTOL型のF35Cに変更したとのことなので、新空母はスキューブ甲板を廃止してカタパルトを装備することに



英海軍次期空母はスキューブ甲板を取りやめ? (Royal Navy)

展示会でのコンヴァンティムUK社がイスでの説明は微妙であった。いずれにしても新空母一番艦「クイーン・エリザベス」の竣工は当初予定の二〇一六年から二〇二〇年頃に延びることになりそうだ。また建造進行中の二番艦は空母としては取りやめの方向ではあるが、建造中止ではなく建造を継続してコンスト母艦に転換するか、または空母として外国に売却という話も出ている。

### ◇射撃指揮装置W20シリーズ方位置盤

フランスの子会社タレス・ネーデルランド (Thales Nederland) 社は、買収前でオランダ・シグナル (Sigbee) 社と呼ばれていた時代に艦載砲や対空ミサイルを管制する高性能な射撃指揮装置W20シリーズを世界各国海軍に

運用には必要であり、垂直短距離発着艦機V/STOL (Vertical/Short Take Off and Landing) ではカタパルトを使用せず空母の艦首部にスキューブ甲板を設けて発艦させるのが一般的である。

英海軍が二隻の建造を開始した「クイーン・エリザベス」Queen Elizabeth級次期空母では搭載航空機としてアメリカを中心に開発された統合攻撃戦闘機F35のSTOVL型であるF35Bを運用することが決定され、スキューブ甲板を運用することが決定され、認められていた。ただし、将来的に固定翼型無人戦闘航空機UCAV (Unmanned Combat Aerial Vehicle) を運用したり、また場合によっては有人のCTOL機運用の可能性もあるということでは、イギリス国内ではEMCAT (Electro Magnetic Catapult) と呼ぶ電磁カタパルトの開発をコンヴァンティムUK (Convex) 社が進めていた。

このような状況下で英海軍はF35Bの価格が高いということから購入機数を削減するた

め提供して一世を風靡していた。わが海上自衛隊でも昭和五〇年度艦「しらね」および昭和五一年度艦「くらま」の二隻に同シリーズのW25を各一台装備して、五インチ砲やスパロークエストミサイルを管制していたことは記憶に新しい。

同シリーズの方位置盤は追尾レーダー・アンテナおよび搜索レーダー・アンテナをシンバル機構の上下に取り付けて各アンテナが独立に作動するように構成し、全体を卵形のレドームで覆うというユニークなアイデアで有名であった。今回の展示会でこの方位置盤がタレス・ネーデルランド社の最新開発品で各種センサーを統合したライオン (Lion) と

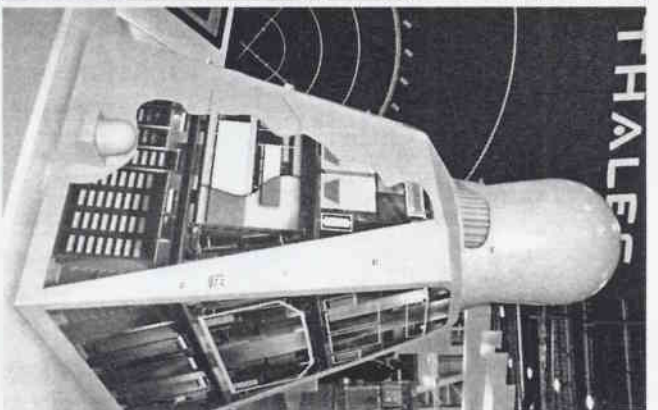
すでに生産終了した射撃指揮装置W20シリーズの最終製品は二年前(一九九〇年)にモロッコ海軍向けに出荷されているが、これを含めて合計三六台が各国海軍で採用され、このうち現時点では二〇台が現役として運用されていると発表されていた。海上自衛隊では「しらね」および「くらま」両艦共

に装備されていたW25は、数年前に国産開発の射撃指揮装置FCS2.12に換装されている。

◇移動型防護壁

ら移動型防護壁でも言うべき一風変わった展示が行われていた。これは例えば港湾で停

ドイツのラインメタル (Reinmetall) 社か

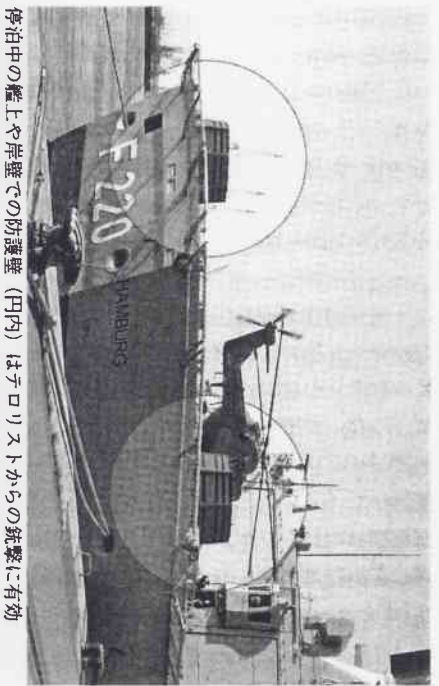


泊中の艦船がテロリストなどの銃撃を受けた場合に銃弾や破片から艦船警備員を保護する目的で甲板

上や岸壁に一時的に設置するもので、複合材料製の移動容易な単なる「板」の組み合わせである。このような目的に従来は砂袋などを用意する必要があったようだが、本製品は少人数で簡単に設置および撤去できるのが特徴であると説明されていた。

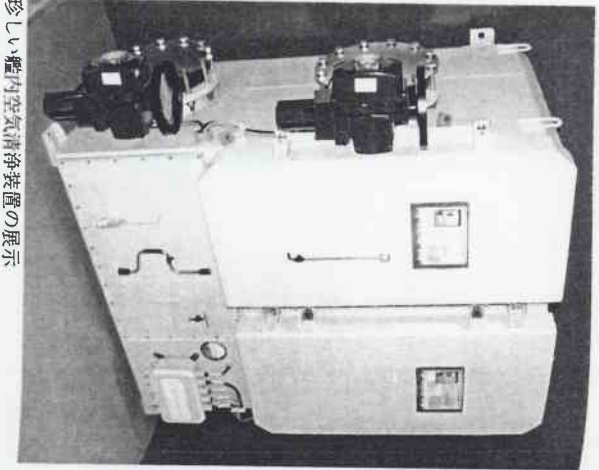
このような製品が展示されるのも現在の時代を反映していると言えるだろう。

◇艦内空気清浄装置



停泊中の艦上や岸壁での防護壁 (円内) はテロリストからの銃撃に有効

艦船にとって核や生物・化学兵器で攻撃された場合に空気が汚染され、艦内が閉空間であるため被害が甚大になる。これを避けるには艦内空気圧を艦外より高めに設定し、また単なる換気だけでなく艦内空気を清浄化する必要がある。このような目的のための装置は普段はお目にかかる機会が少ないが、機銃開



新しい艦内空気清浄装置の展示

展示はあったが散発的・限定的であり自立存在ではなかった。しかし今回は国営武器輸出公社 (Rosobornexport) が中心になり立派なブース的な姿勢が見られた。展示は艦船模型を中心にセンサーや武器など広範囲にわたっていた。

◇艦船

艦船について新生ロシア海

発で有名なネクスター (Next) 社の子会社であるBCシス (ZBC Sys) 社が艦船専用装置を展示していた。

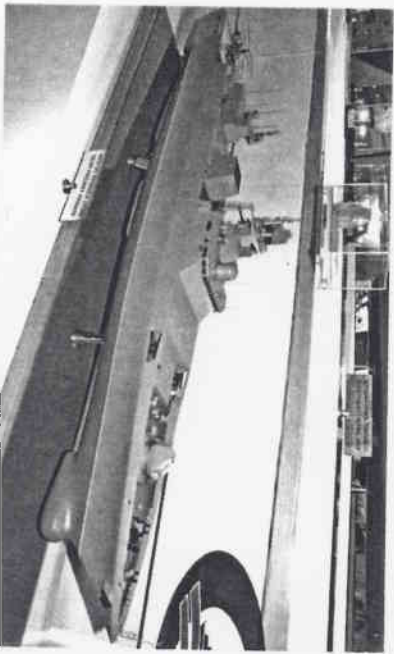
この装置はフランス海軍が建造中の多任務フリゲートFREMMに一隻で八基搭載する。ことになっており、一基で一時間に二四〇立方mの換気と清浄化を行うことができる。寸法は一・六m×〇・九三五m×一・八九mで、重量は三〇〇kg。

ロシア関連

過去のユーロナイヴァルではロシアからの

軍は永らく旧く連海軍の艦船を引き継いで運用していたが、近年になって新しく設計した艦船の建造に着手している状況である。現時点ではロシア海軍向けに計画・建造している艦種の全てについて輸出型を設定して模型を数多く展示し輸出にドライヴをかけている。これには著名なルビン (RUBIN) 設計局をはじめ複数の艦船設計局や有力な造船所が結成した組織USC (United Shipbuilding Corporation) が強力に後押ししている。

例えばロシア海軍向けに建造中で去る一月二十九日に一番艦が進水したばかりのロシア



プロジェクト22350「アドミラル・ゴルコフ」の輸出版